（様式１）

令和８年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立第四吾嬬小学校
校長名	菊地　幸子

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
前年度、調査結果を踏まえ、全校で取り組んできたことの成果が出た。 ・２～５年生は、全教科において標準スコアを上回る結果となった。６年生は、算数を除く教科で標準スコアを下回ったものの、全教科のスコアが前年度を上回った。 ・基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組の成果が出ており、特に６年生の「基礎」の正答率が前年度を上回った。	・全体的に記述式の正答率が低く、無回答率が高い。本文からの引用や、得た情報を活用して自分の考えを述べることに課題が見られる。 ・示された資料から必要な情報を正確に読み取ることや、得られた情報をもとに、明文化されていない文脈等を考えることに課題が見られる。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・「発信力」「他者からの評価」の項目は、全学級が標準スコアを上回った。校内研究で取り組んでいる、地域教材を活用した探求的な学習の成果と考えられる。 ・「生活習慣」「学習習慣」は、全学級が標準スコアを上回る、もしくは下回ったものの標準スコアに近いスコアだった。継続的な指導の成果と考えられる。	・i チェックカテゴリーの各スコアは、高学年で全国 i スコアを下回る傾向がある。 ・「正答率が 80%を上回り、かつ、自己肯定感が全国スコアの平均以下の児童」がどの学級にも複数いる。 ・全体的に各学級の「規律と思いやり」の散布図の広がりが大きく、学級内に差がある。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・６年生は、全国学力・学習状況調査の結果においても、区調査と同様の学習状況等の傾向が見られた。 ・小規模校の特性を生かし、日常的に児童の学習状況等の情報を共有することで、教員個々が日々の授業改善に生かしている。	・学習や学校生活上の規律や手順等について、統一性・系統性が不十分であり、学習に向かうための基盤の充実を図る必要がある。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）誤答を「学び」にする授業の実施

・「なぜ、間違えてしまったのか」を考えたり、説明したりする学習時間の確保。
・正答した児童が、どのように考え、取り組んだのかを共有し、友達の取組を自分の工夫に生かす経験の積み重ね。
・「次、間違えないようにするためにどうするか」を考えることや、自分なりに取り組むことの大切さの指導と、児童個々の取組姿勢や変容への評価。

（２）授業における推論する時間の確保

・既習した事柄・出来事・公式等を、新しい問題に当てはめて考える時間の確保と、そのための教材の工夫。
・既に知っている事実や情報をもとに、「まだ分かっていないこと」を筋道立てて考える時間の確保と、そのための教材の工夫。
・共通点や因果関係について考える時間の確保と、そのための教材の工夫。

（３）「生きた知識」を活用する授業の実施

・単にルールやきまり、知識の習得だけでなく、「なぜそうなるのか」等、児童自身が自分のもっている知識を使って考える学習活動の実施。
・暗記した公式や事柄等を、別の場面や生活の中にあり事柄に当てはめて考える学習活動の実施。

（４）組織的なアセスメントの実施

・墨田区学習状況調査の過去問題から正答率の低い問題を抜粋したミニテストの実施および成果・課題の分析。
・学力向上委員長が中心となった、学校全体および系統的な視点での授業改善の方向性のフィードバック。

３　「令和９年度 墨田区学習状況調査」の目標

・全ての教科・学年において、無回答率 10%以下。

・全ての教科・学年において、記述式で回答する問いの正答率を、前年度比＋５%以上。

・全ての教科・学年において、D・E 層の割合を 10%以下。